

Electronic Devices

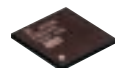
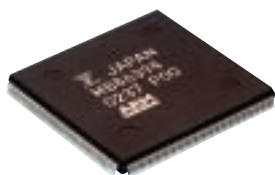
ロジックIC、システムLSIに経営資源を集中して投入

事業戦略

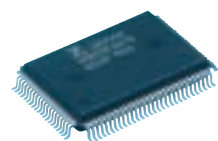
2003年度は、お客様の視点でビジネス運営をさらに進めて営業スキルの向上を図り、コストダウンとスピードアップで早期の業績回復を狙います。電子デバイスビジネスの中核となるロジックIC、特にシステムLSIに経営資源を集中して投入します。既存商品の拡充や単独の電子デバイス商談だけではなく、ソフトウェア・サービス分野関連のシステム商談において、組込用の電子デバイスが鍵をにぎる事例が増えてきており、富士通グループ独自のデバイスソリューションの提供に力を入れてまいります。

商品別の事業戦略

- ロジックICでは、デジタルAV向けなど特定の用途・ユーザー向けの半導体であるASICや演算処理を行うマイコンといった既存の商品の拡充はもとより、最先端の微細化技術を採用するシステムLSIで世界をリードします。あきる野テクノロジセンターでの開発が完了した90ナノメートルプロセステクノロジーで、富士通の高性能サーバ向けのCPU（中央演算処理装置）の量産をはじめます。これらの取り組みにより、富士通グループの製品競争力を支えるとともに、得意分野であるデジタルAV機器、携帯電話等のモバイル機器、自動車向け製品に経営資源を集中し、売上拡大と黒字体質への転換を進めてまいります。
- フラッシュメモリについては、米国AMDとの合併事業をさらに進め、従来の製造分野での協業に加えて、マーケティング、研究開発、後工程まで含めた経営全般を行う新会社を設立いたします。富士通は、引き続きお客様の様々なニーズに合うフラッシュメモリ製品を提供してまいります。
- 化合物半導体では、富士通カンタムデバイス(株)、メディアデバイスは富士通メディアデバイス(株)において、特にアジア市場の携帯電話基地局および携帯電話向けに経営資源を集中し、収益の改善を目指してまいります。
- PDPについては、富士通日立プラズマディスプレイ(株)において、引き続き高輝度・高精細を実現した新製品を量産し、拡大するプラズマテレビ需要に応えてまいります。
- 液晶ディスプレイについては、富士通ディスプレイテクノロジーズ(株)において、19型以上の大画面高精細モニターの提供に注力し、収益体質の改善に努めます。また、台湾AU Optronics Corporationと提携し、高輝度、高視野角の液晶ディスプレイの提供に力を入れてまいります。
- コンポーネントについては、通信基幹システム用途のリレーやコネクタなどにおいて、生産革新運動を推進し、収益拡大を図ります。



システムLSI



マイコン



PDP